

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号

令和6年8月29日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
対象作物：かんきつ、落葉果樹（なし、かき、キウイフルーツ等）

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域： 県内全域
- (2) 発生が予想される時期： 8～10月
- (3) 発生程度： 多
- (4) 防除時期： 8～10月

2 注意報発表の根拠

- (1) 県内4か所の予察灯における8月1～20日の合計誘殺数の平均は、1586頭（（ ） 平成152頭、（ ） 平成比10.4倍）と平成より多かった（（ ） 図1）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが926頭（（ ） 平成366頭）、ツヤアオカメムシが325頭（（ ） 平成66.8頭）、クサギカメムシが335頭（（ ） 平成121頭）であった。
- (2) 県内6か所のフェロモントラップにおける8月1～20日の合計誘殺数の平均は、295頭（（ ） 平成167頭、（ ） 平成比1.8倍）と平成より多かった（（ ） 図2）。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが292頭（（ ） 平成159頭）、ツヤアオカメムシが0.8頭（（ ） 平成5.8頭）、クサギカメムシが2.9頭（（ ） 平成2.1頭）であった。
- (3) ヒノキ・スギ球果の着果量（（ ） 指数）は、（ ） 県平均7.1（（ ） 平成4.4、（ ） 平成比1.6倍）と平成より多かった（「令和6年度技術情報第1号」参照）。なお、本虫は球果を餌として増殖するため、着果量が多いと本虫は増えやすくなる。
- (4) 8月のヒノキ球果における平均寄生数は、10結果枝あたり13.1頭（（ ） 平成3.1頭、（ ） 平成比4.2倍）と平成より多かった（（ ） 図3）。
- (5) 8月のヒノキ球果における球果1個あたりの本虫の吸汁痕数は、平均15.2（（ ） 平成10.1、（ ） 平成比1.5倍）と平成より多かった（（ ） 図4）。なお、ヒノキ球果における吸汁痕数が25を超えると、本虫はヒノキから離脱し、餌を求めて果樹園に飛来するとされている。
- (6) 果樹関係の病害虫防除員18名からの報告によると、本虫の発生について9名が「多い」または「やや多い」と回答した。また、一部の果樹園で本虫の飛来を確認したとの情報が複数寄せられている。
- (7) 名古屋地方気象台による1か月予報（令和6年8月22日発表）では、降水量は平成より多いが、気温は平成より高いため、本虫の発生を助長する。本虫が急増し、ヒノキ・スギ球果を吸い尽くすと、新たな餌を求めて果樹園へ飛来し、果実を加害する恐れがある（（ ） 図5）。

3 防除方法

- (1) ヒノキ球果での本虫吸汁痕数をもとにした予測式（（ ） 堤、2003）によるヒノキからの離脱予測日（果樹園への飛来予測日）は、9月5～10日頃（（ ） 地域により異なる）と予想される。ただし、吸汁痕数が最も多い地点での飛来予測日は8月29日頃と予想される。
- (2) 本虫の飛来に細心の注意を払い、ほ場で少数でも発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に直ちに薬剤防除を行う。また、成虫の移動範囲は広い（ ） ため、地域での一斉防除が効果的である。なお、ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や（ ） 台風・暴風雨後の園地では、（ ） 急激に発生が増加する（ ） 場合があるので注意する。
- (3) 薬剤防除については、静岡県病害虫防除所による（ ） [「静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基](#)

準」を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。

- (4) [静岡県病害虫防除所ホームページ「害虫誘殺グラフ」](#)では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ・スギ球果の着果量、球果における寄生数、ヒノキ球果での吸汁痕数、果樹園への飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。
- (5) 本虫の発生は例年10月末で終息するが、最高気温が20℃を超える場合は11月でも発生することがあるため注意する。
- (6) 不明な点については病害虫防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>



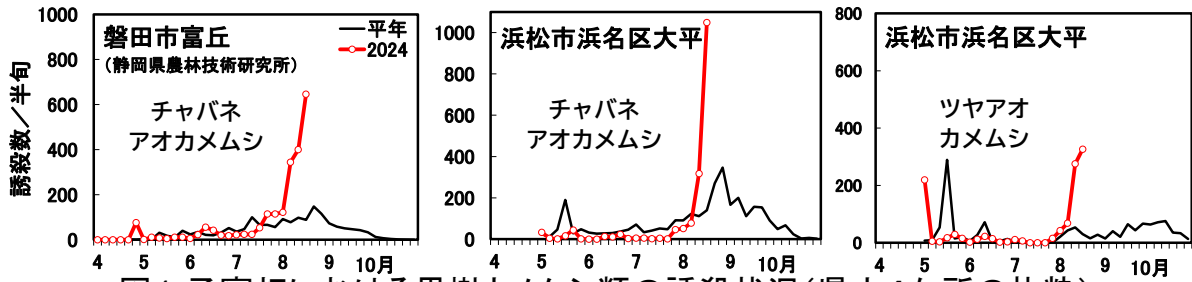


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況(県内4か所の抜粋)

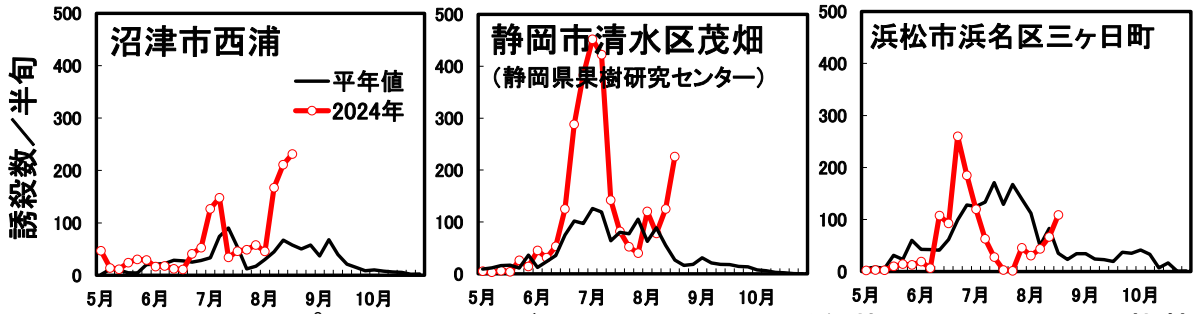


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況(県内6か所の抜粋)

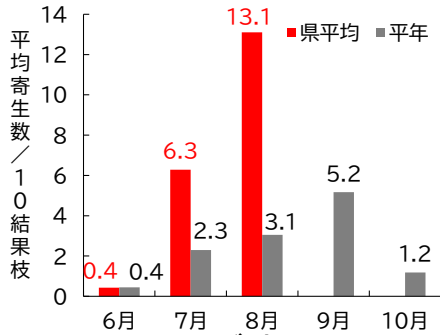


図3 ヒノキ・スギ球果における果樹カメムシ類の寄生数

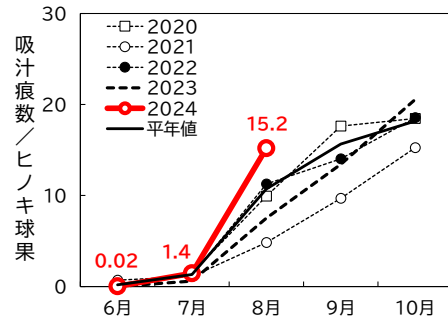


図4 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の吸汁痕数



図5 果樹カメムシ類とその被害果実